

2006年活動報告

交通安全の生涯教育をめざして 安全運転普及活動に地道に取り組む

Hondaは、どんなにクルマが進歩しても最終的に安全のカギを握るのは人間であるという考えのもと、「人」に焦点をあてた安全運転普及活動を展開している。2006年、Hondaは次の4つの側面で活動の拡大とレベルアップに取り組んだ。

参加体験型の実践教育の強化

販売拠点での取り組み

今年、全国の四輪販売会社のレインボーディーラー店では、専門の教育を受けたスタッフおよそ2万人が安全アドバイスだけでなく、お客様を対象にした参加体験型の講習会「安全ミニ講習会」や「ドライビングスクール」の開催に力を入れた。また、二輪販売店でも同様に、ライディングアドバイザー資格を持つスタッフがお客様を対象に「ライディングスクール」を開催した。

ホンダの販売拠点は、地域での安全運転普及活動の拠点として重要な役割を担っている。

四輪販売会社のレインボーディーラー店では、「安全ミニ講習会」「ドライビングスクール」などの開催に力を入れた



二輪販売店主催の、お客様を対象にした「ライディングスクール」のよう

交通安全教育センターでの取り組み

全国8カ所にあるホンダの交通安全教育センター(もてぎ、和光、埼玉、浜松、浜名湖、鈴鹿、福岡、熊本)では、参加体験型のトレーニングを行っている。企業・団体の方が年間約3万4000人、ホンダドライビング・スクール、ホ

※レインボーディーラーIIホンダの四輪販売会社でセーフティコーデイネーター資格の取得、チーフセーフティコーデイネーター資格の取得、安全運転講習会の開催という3つの必要条件を満たした販売会社が拠点と認定される。セーフティコーデイネーターとは、お客様に、店頭で安全アドバイスができるホンダの社内資格を持ったスタッフで、チーフセーフティコーデイネーターは、安全講習会の企画・立案・開催の実行指導などができる、セーフティコーデイネーターのリーダー的存在。

交通安全教育を広げていくための指導者づくり

ンダモーターサイクリスト・スクールなど個人向けのスクールに約2万人が参加した。日本本交通安全事故を防ぐための重要な役割を果たすため、交通安全活動を支援している。



交通安全教育センターでは、参加体験型の実践教育で、企業の交通安全活動を支援している

地域での取り組み

三重県鈴鹿市と協力して開発した小学校3、4年生向けの交通安全教育プログラム「あやとりい」、4〜5歳児対象

交通安全教育センターの指導者研修には、これまでに約10万人の方々が参加され、企業・団体、学校、地域の現場で活躍されている。

全国の交通安全教育センターが主催する「トラフィック・セーフティ・フォーラム」は、今年で15年目を迎えた。このフォーラムでは、様々な企業の活動事例、研究者の発表、意見交換などが行われ、企業や団体の交通安全教育における情報交換の場として多くの参加者を集めた。

「セーフティジャパンインストラクター大会」は、第10回を迎え節目の大会となった。国内の交通安全教育センターのインストラクター、製作所・研究所、二輪・四輪販売拠点、海外からの代表など、ホンダグループの安全運転指導者、12カ国114人が参加して運転技術や指導力を競った。

交通安全教育を広げるために、教育を牽引する指導者の育成とレベルアップに取り組んでいる。



今年で15年目を迎えた「トラフィック・セーフティ・フォーラム」

「第10回セーフティジャパンインストラクター大会」には12カ国114人が参加



「あやとりい ひよこ編」、小学生向け「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」は、1年間で受講者が2万人を超え、鈴鹿市で活動が浸透している。

自転車事故防止は全国的に重要なテーマとなっており、「あやとりい 自転車教室」は学校の授業で取り上げられ、今年1万2000人以上が参加した。

「あやとりい」は、交通安全の生涯教育プログラムの1つとして確実に広がりを見せている。



「あやとりい 自転車教室」が小学校で行われた

海外の安全運転普及活動の拡大

日本の安全運転普及活動をモデルに、Hondaの海外現地法人が行う安全運転普及活動はさらに充実してきている。

Honda Motor RUS (ロシア)、Honda Vietnam (ベトナム)では、今年から四輪販売会社での安全運転普及活動がスタートした。

二輪の活動を充実させてきたアジアでは地域の活動や生涯教育へと活動範囲を広げている。

五羊本田(中国)では、行政や市民とともに安全な街づくりに取り組んでいる。今年も、五羊本田と安全運転普及本部が市内の交通安全実態調査を行った。その分析結果をもとに、来年から交通事故のない安全な街づくりのための具体的な計画の作成に着手する。

また、A.P. Honda (タイ)では、政府と協力して、日本で開発された「あやとりい」をモデルに子ども向けの交通安全教育をスタート。来年は販売店での展開の拡大をめざしている。



ロシアでも今年から四輪販売会社での安全運転普及活動がスタート



タイでは日本の「あやとりい」をモデルに子ども向けの交通安全教育が普及し始めている

参加体験型の教育効果をさらに高める 教育ソフトの開発

安全運転普及本部は交通安全教育センターと連携し、新しい交通安全教育ソフトの研究・開発に取り組んでいる。昨年開発した高齢ドライバーを対象とする「健康ドライブスクール」用のフォローアップ教材を3つ作成し、今年5カ所の交通安全教育センターで試行、来年より本格展開する予定。

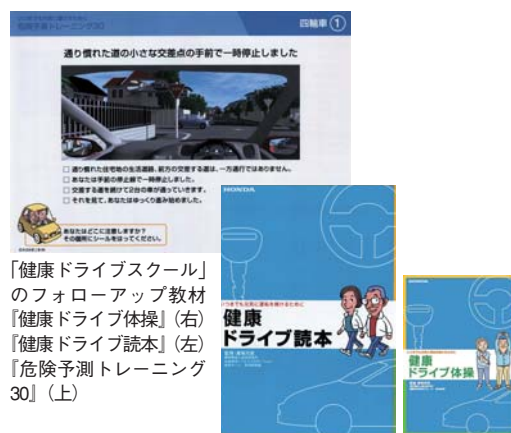
今年、運転のプロセスで重要になる危険予測能力向上のため、コンピュータグラフィックスを活用した「動画KYT」(危険予測トレーニング)の開発に取り組んだ。

また、映像やシミュレーターを活用しながらインストラクターとの2WAYコミュニケーションを深めることで、受講者自らの気づきを促す講習を実施している。

今後も開発に取り組む、開発したソフトを交通安全教育に役立てていただけるよう広く提供したい。



臨場感のあるコンピュータグラフィックス映像を使用し、危険予測能力を高めるトレーニング「動画KYT」



「健康ドライブスクール」のフォローアップ教材「健康ドライブ体操」(右)「健康ドライブ読本」(左)「危険予測トレーニング30」(上)